

敬愛短大附属幼稚園だより5月号

新しく千葉敬愛短期大学附属幼稚園に入園されました保護者の皆様、ご入園おめでとうございます。既に園のお友だちや先生方も入園を心待ちにしておりました。これから園での様々な活動を通して小学校に円滑な接続ができるようにしっかりと他のお友だちと共に社会性の基礎を身につけて行きたいと考えています。ご入園に当たって、保護者の皆様に数多くの幼稚園の中から当園を選ばれた理由をお聞きしましたところ、最も多かった理由は、先生方が明るく、優しくとても元気が良いということでした。このことは当園の最大の良さと認識して、この良さをいつまでも失わないようにさらに精進して行きたいと思えます。

1 一人一人みんな違っていいんだ

年長さんが卒園し、久しぶりに子どもたちが元気に園庭で遊ぶ姿が敬愛幼稚園に戻ってきました。遊んでいる姿を見ていると、それぞれが自分のしたいことをたっぷり楽しんでいる様子が分かります。同じ遊び道具を使っている、それぞれが様々な使い方をしており、さらに、お友だちと連携して遊んでいる姿がたくさん見られます。

大人の感覚ですと、この道具はこのように使うんだという（道具＝同じ使い方）ことになりがちですが、子どもたちは違います。また、年長さんくらいになると、遊び方も自分たちでルール決めて行うことがよく見られるようになります。与えられて行うのではなく、新しく自分たちで創造して行く姿です。先日、外国に長く住んでいて帰国された方とお話をする機会がありました。その方は高校や中学でALTをされている方ですが、英語の授業の際に「このことについてどのように思いますか」と質問を生徒にしたそうです。そうしたら、誰も答えようとしなくて、いくつか例をあげた後に、それぞれの表情から判断してこのようなことを言いたいのかなと推し量ったのだそうです。英語で答えるとなるとうまく言えないので声が出ないということがあるのかもしれませんが、諸外国では多くの生徒が自分の考えや意見を必ず言います。日本の学生と異なり、ディスカッションをすることは普通のことになっています。特に、この子どもたちが社会人になるころの日本はこれまでの「同じを求める」のではなく、むしろ「違いを求める」ことが加速することでしょう。そうしなければ益々グローバル化して行く国際社会では対等な立場にもならないでしょう。ですから、幼児期から「違いを求める」ことは良いことなんだ、ほかの人と考えが違っていいんだということを互いに認め合い、それぞれの考えが尊重されるように変化して行く必要があるのではないのでしょうか。考えは異なるけれど力を合わせるときは一つの方向に向かって協力を惜しまない。そんな未来のためにどうするか、一緒に模索してみませんか。

2 「考える力」そのII

- ①考えない人はいない⇒考えの質の向上を図ることが大切
- ②考えるようになるためには疑問や課題を自覚しないと始まらない⇒問題の把握（何が問題なのか）
- ③高すぎる問題は解決をあきらめて考えようとしなくなる⇒ゴールは強く願ひ、忍耐は内に秘める
- ④自分で解決しようとせず、他の力を借りようとする⇒自分では考えようとしなくなる⇒大人が先回りせず、子どもの自力解決の場を作る
- ⑤考えのコピーは自分のものではない⇒自分の考えがあるのと無いのではあまりにも大きな差。
- ⑥できた、分かったという満足感を得る経験がないと考えようとしなくなる⇒楽しくないと前には進まない。好奇心が心を活発に揺り動かす

いかがでしたか、まだまだたくさんあると思いますが、考えることが「楽しいこと」とならないと本物にはなりません。幼児期はこうしたことの芽生えの時期です。**アクションを起こさなければ大事な時期を失ってしまいます。**「あの時こうしておけば良かった」は、タイムマシンにでも乗らなければ戻れません。先月号の園だよりにある少し離れた所のことを幅広く知ろうとする好奇心はお子さんたちの将来の大きな力となることでしょう。

（園長 杉山清志）